

序

本年は、明治5年「学制」が公布されてから満100年目にあたります。この記念すべき年を迎え、恒例の市教育研究所教育論文集も、学制発布100年記念号として、刊行することになりました。

このたびの論文数は13編、そのうち学制発布100年にちなんだもの6編、実践記録7編（教育課程管理に関するもの1編、理科2編、数学1編、体育2編、道徳1編）あり、内容も大へん充実したものになったと思います。

特に、栃教委安足教育事務所長 漆原十月先生、市教育委員会委員長 福田英二先生、同教育長 佐藤里弘先生には、お忙しいところ記念号にふさわしい玉稿をいただきまして、心からお礼申しあげます。

明治5年発布された学制の教育理念は、その施行の際だされた太政官布告によく示されています。すなわち、「人々自らその身をたて、その産を治め、その業をさかんにするためには、身を修め、知を開き、才芸に長ずることが必要である。それは、学問によってはじめて可能であり、そのため学校も設けたのである。」と述べております。

第三の教育改革の必要性が叫ばれている今日、わたくしたちは、温故知新、学制発布の当時に思いをいたし、望ましい教師像をめざして自己研修につとめ、さらにいっそう、本市の教育振興を図らなければならぬと思います。

この教育論文集が、多くの先生方の研究の参考として役だつとともに、各学校における日々の実践活動の中にじゅうぶん生かされることを念願して序といたします。

昭和47年3月

足利市立教育研究所長

中 村 章